

尋常小學校讀本

倉知新吾編輯

三

檢定申請本

K120.8
50
3

K120.8

50

3

倉知新吾編輯

尋常小學校讀本

益智館
古香堂 同梓

尋常小學校讀本卷三

第一課

櫻



櫻の花は四月の初よりさき出で、月中ごろにいたれば、さかりとなる。花のさかりなるを、とほく見渡せば、白雲のかゝれるがごとし。

春のやよひのあけぼのによ



もの山べを見渡
 せば花ざかりか
 も、白雲のかゝら
 ぬみねこそな
 かりけれ。
 我が國の櫻のやうに
 みごとなる花ハ外國
 になし。

初雲渡 春 我 外國

第二課

菜ノ畑 麥ノ畑

菜ノ花サケリ。麥ノホ出デタリ。黄ナ
 ル菜ノ畑ニ、ミドリノ麥畑マジレリ。
 テフハ、菜ノ花ニマヒ、ヒバリハ、麥ノ
 上ニサヘヅル。マフテフモ、樂シク、サ
 ヘヅルヒバリモ、ウレシカラシ。

菜種ハ、菜ノ實ナリ。
コレヨリ油ヲシボ
リトリテ、トモシ火
ニ用フ。
麥ノ實ハ、カシギテ
飯トナシ、又シヤウ
ユウクワシ等ヲ作
ルニ用フ。



黄 樂 種 實 油

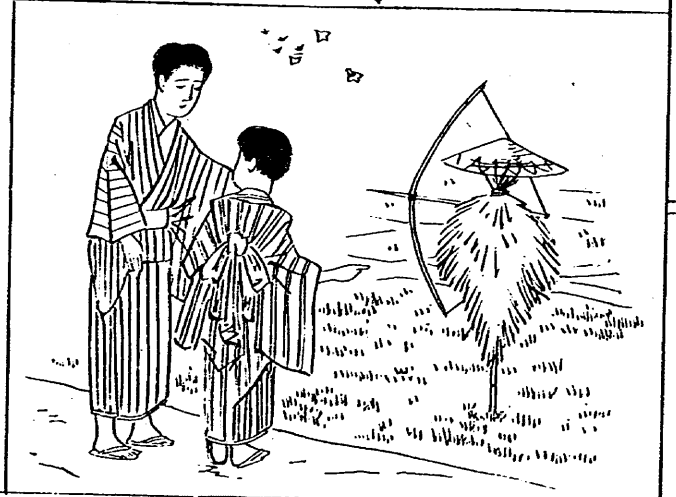
第三課

苗代にかぶ

苗代を、ごらん。水田一めん、に種をま
いてあります。

あうこに、笠をかぶり、みのを、着、弓、矢
を持つて、立てるハ、何でありますか。
あれハ、かぶ、といふものであります。

す。
かゞーは、何になる
ものですか。
苗代をあらす鳥を、
杞どすのでござり
ます。
なるほど、鳥ハ、かゞ
ーを、まことの人と、思ふでせう。



水 笠 着 弓 矢 立 思

第四課

カサ ミノ

カサニハ、カブルモノト、サスモノト
ノ別アリ。スゲ笠、タケノコ笠、ヒノキ
笠ナドハ、カブルモノナリ。又サスノ
ニハ、日ガサ、雨ガサノ別アリ。カウモ
リカサモ、サスモノニテ、近ゴロ、西洋

ヨリ來リタルナリ。

ミノハ、兩フルトキ、衣服ノ上ニ着ル
モノナリ。スゲ、ワラナドニテ作ル。又
コシミノトイフアリ。コシノマハリ
ニノミ、ツクルモノニテ、レフシナド
ハ、コレヲ用フ。

別 兩 近 西洋 衣服

第五課

手紙

父ハ小太郎をよびよせ、今月の十五
日は、うぢがみさまの杞まつりゆゑ、
おぢさんをよばうと杞もひます。手
紙をかいて杞くれといへば、小太郎
ハかゝこまりまゝたどて、左の文を
作りたり。

今月十五日は、うぢがみさまの、

五十年の昔
おまつりでありますから、おと
きさんをつれて、おいでくださ
れ。

父は、これをよみよく出来たといひ
て、すぐさま、いうびんにて、さうい
したり。

父 小太郎 紙

第六課

へんど

やがて、てがみが、つきければ、おぢは、
ひらき見て、むすめのお時をよび、へ
んどをかゝせたり。

お時、父のいへるがまゝに、へん
どの文を、うたゝめたり。

おまつりに、おまねきくだされ、
ありがたうござんます。十五日

には、あさはやうむすめをつれてまゐりませう。

第七課

しんぞく

おやの兄弟を、おぢといひ、おやの姉妹を、おばといひ、おぢおばの子をいふ。とこといふ。

父母、兄弟、姉妹、いふまでもなく、此

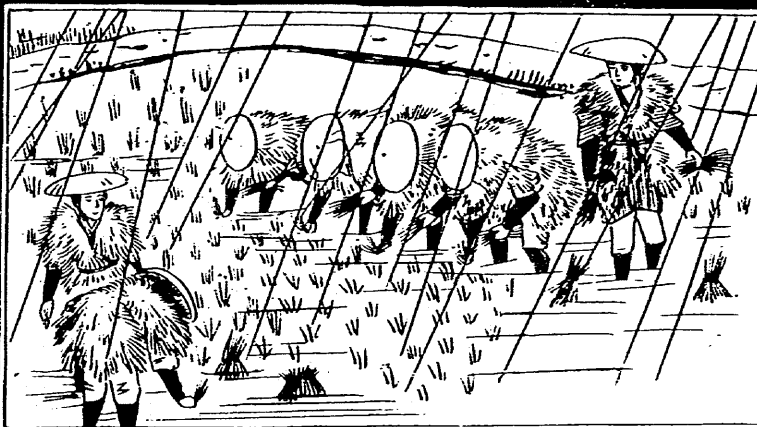
等の人々を、皆近きしんぞくなり。しんぞくの人は、互に、いつくしむべきものなり。

弟 姉妹 互

第八課

田植

苗は、五六寸にのびたり。人々苗代よりとりて、本田にうつし植う。



この圖を見よ、人々皆
みの笠をつけ、雨にぬ
れつゝはたらし、朝よ
りくれまで、休むこと
なく、其くらういかば
かりぢや。

其 寸 植 圖

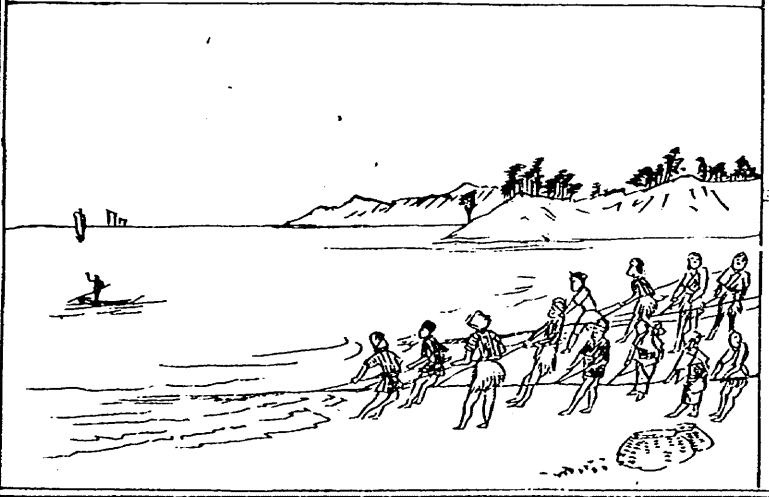
第九課

すなどり

はまべに多くの人、網を引いて居
ます。あれハ、いわし網であります。
一ろりの舟が、岸の方に向うて來ま
す。舟の上に立つて居る人は、右の手
をさしのむしてゐます。これハ、網の
右の方を、つよく引くと、さしづする

のでせう。
網にもふくろがつ
いてゐます。やがて
網は岸に引きあけ
られて、ふくろに一
をいいわしがはい
つてゐませう。

網居網



舟岸引

第十課

イワシ

イワシハ、小キ魚ニシテ、多クムラガ
リ居ルモノナリ。生ニテモ、煮テモ、ヤ
キテモ、其味ヨシ。ホシタルヲ、ホシカ
トイヒテ、肥料トナス。
其他、シボリテ油ヲトリ、トモシ火ニ

用フ。其シボリカスハヨキ肥料ナリ。
煮 味 肥料 他

第十一課

舟

二郎サン、舟ヲナガシテ并マスカ。其
舟ハ、アナタガ、コシラヘタノデゴザ
リマスカ。
サヤウデス。コレゴランナサイ。杉ノ

板ニ、竹ノハシノホバ
シラヲツケ、帆ニハツ
ケギヲ用ヒマシタ。
マコトニヨク出来マ
シタ子。
オハマサン、アナタ扇
デ、舟ヲアフイデ下サ
イ。

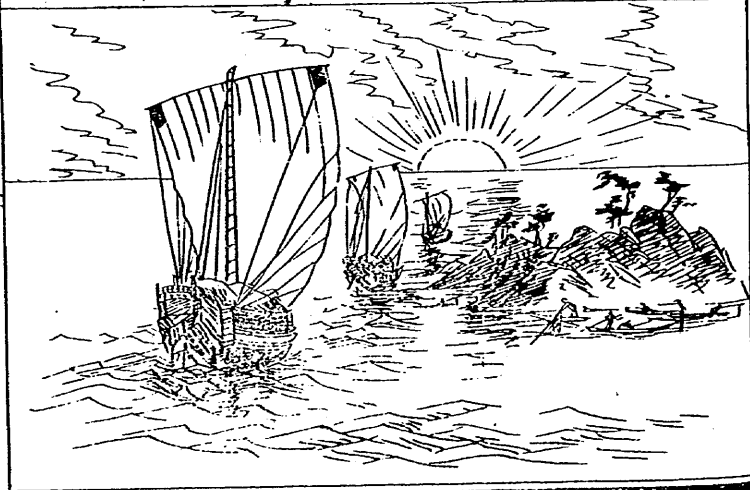


ヨウゴザリマスカ。舟ガモシムカウ
 へ走りマシタラ、ドウナサレルカ。
 ナニ糸ヲツケテアリマスカラ、ヨロ
 シイデス。
 ナルホドソレナラ、アフギマセウ。
 杉板竹帆扇走
 糸

第十二課

海上の船

夕日波にうつりて
 海上のけしきはな
 はだよし。しまのほ
 とりにハ、漁船あま
 たありて、れふハ、
 つりをするあり。網
 をなぐるあり。るを



をすあり。

三づうの船の帆をあげて走れり。深く水に入りたるを見れば、つみ荷多きやうに思える。

帆の十分に風をうけたり。帆の日の方に向ひて、ふくれたるを見れば、風は東より吹くならん。

海 漁船 深 荷 吹 波

第十三課

ねにごと 一

今、学校の休みの時間と見れば、男の生徒だち、遊歩場で、子とりねにごとをして居ます。

七人の互につながりあつて居ます。其一番前のもの、ねやで、其後の六人の皆子であります。又一人をなれ



て居るハ、おにであ
ります。
おにが一番後の子
を捕へんとすると、
おやハ捕らせぬや
うにふせぎます。
おやが右へよると、
子が左の方へかけ

まはりおやが左へ向くと、子が右の
方へ走ります。
おにハ、たやすく子を取捕へられぬや
うであります。

遊歩場 番 居 捕

第十四課

おににごと ニ

女の生徒だちハ、めくらおににごとを

して遊んで居ります。
おうめといふ子が
おにふなりました。
おにの手のごひで
目覚くゝつて、じつ
と立つて居ます。
多くの子供は互に



手を引いて、輪を作り、歌をうたひつ
つ、おにのめぐりを廻りくくします。
やがて、歌がやみ、輪がとまりました。
おにのこゑをたよりに、一人の子を
捕へ、かいらをなで、あれ、おをなさん
ですと、名指しました。これから、おを
ながおにふなります。

輪歌廻名指

第十五課

火

我等ハ、常ニ、火ヲ用ヒテ、食物ヲ煮ル。
 モシ、火ナクバ、食物ハ、皆ナマニテ、食
 ハザルベカラズ。
 我等ハ、冬ノ寒キ日ニハ、火ヲタキテ、
 暖ヲトル。モシ、火ナクバ、イカニシテ、
 寒サヲフセガン。

我等ハ、常ニ、燈火ヲ用ヒテ、夜ヲテラ
 セリ。モシ、燈火ナクバ、夜ニ入りテ、何
 事ヲモ、ナスコトアタハザルベシ。
 サレバ、火ハ、我等ニ、甚ダ大切ニシテ
 一日モ、カクベカラザルモノナリ。

常 暖 寒 燈 夜 甚
 大切

第十六課

火事

此圖を見よ。家はすでにふやけたちて、火の倉にもはつかんとす。其いきほひ甚だまげし。火けしは、長きまじごを立てかけて、屋根に上らんとするもあり。ぼんぷにて、いきりに、水をろろぎかくるもあり。又まとい城ふるもあり。



此火事のもと、子供の火をもてあろびしより、起りしものなり。火を、我等に大切なるものなれども、これをろりやくにするとき、かくらろろき火事と

なることあり。生徒たちよ、決して火をもてあそばべからず。

倉屋長起決

第十七課

梅雨

此頃ハ、雨フリツミキ、ホトンド、太陽ヲ見ルコトナク、地面ハ、カワク間モアラズ。草木ノ葉ハ、皆ヌレテ、シヅク

ヲ落シ、アマダレノ音ノタエ間ナシ。マコトニ、サビシキケシキナリ。コレヲ梅雨トイフ。

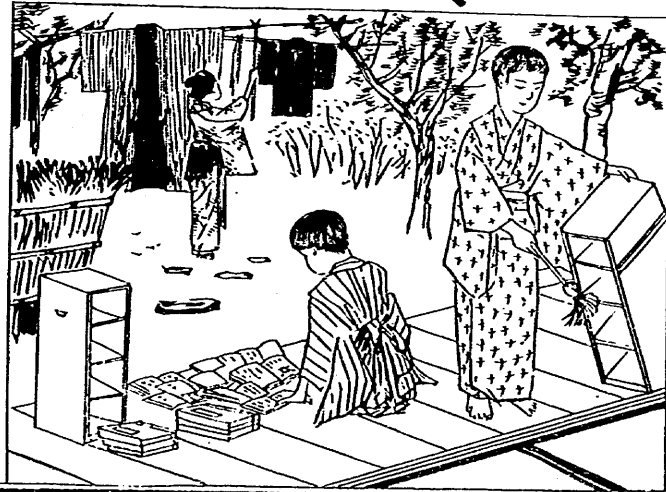
梅雨ノ時ニハ、我等ノ衣服、道具ナド、オホカタシメリヲフクミ、カビヲ生ジヤスク。又食物ナドモ、クサリヤスシ。

頃 太陽 面 落 道具

第十八課

虫干

梅雨すぐれば暑さ、
ふたかに増す、
母ハたんすより衣
服を出だして、これ
戎竿にかけ、太郎と、
次郎とは、本を江んにならべ、又本箱



の中をほらへり。

これハ、虫干をなすところなり。虫干
をなすを、何のためか。

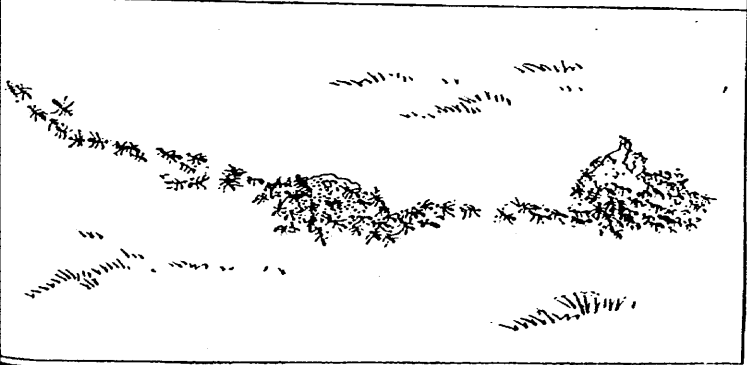
暑 増 竿

第十九課

アリ

アリハ、小サキ虫ニシテ、穴ヲホリ、土
中ニ住メリ。冬ノ間ハ、此穴ノ中ニヒ

ソミ暖ナル頃ニナレバ、
出デ、食物ヲタヅ子夏
ノ間ニ、多クノ食物ヲア
ツメテ、穴ノ中ニ貯ヘ、冬
ゴモリノ用意ヲナス。
アリハ、力強クシテ、オノ
レノ身ヨリモ、大ナルモ
ノヲクハヘテハコベリ。



モシ、ヒトリノカニテ、ウゴカスコト
アタハザルトキハ、多クノ友ヲサソ
ヒ來リ、共ニ力ヲ合セテ、穴ノ中ニオ
クルナリ。

穴 住 貯 用意 力 強
身 合

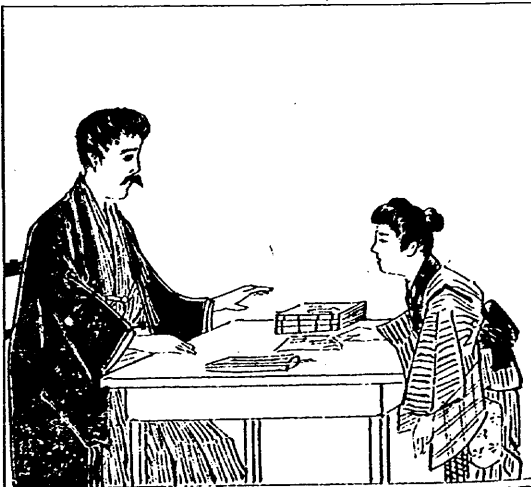
第二十課

貯金

或る學校ふ一人のまづーき女生徒あり。入學せーより、日々三厘、四厘づつの金を持ち來りて、あづけたり。これ、毎日、母のちんしごとを手つたひ、其ちん錢の中より、少ーづゝもらへるものなり。

かくて、二年あまりもすぎけるが、或る日、この女生徒、あづけ金を、お下

くださきと、ねがひ出でたり。先生ハ、其わけを問ひ、母ながく、病氣で居ります。が、まづーき手前です。から、藥の手あても、出來かねます。うきで、あづけ金のお下げをねがひ、藥の代に



ませうと思ひますと答へたり。
先生は、こきを聞き、大ふかんしん
かくて、其金をもどせりとぞ。

厘 錢 毎 少 問 答

病氣 藥 代 聞

第二十一課

夏やすみ中の心得

太郎ハ、學校よりかへり、直に父の前
に來り坐し、おとつさん、學校ハ、明日



から、夏やすみでござ
りますと、つげたり。
父は、されバ、休みハ、い
つまで、あるかと、問
ひけれど、太郎ハ、來月
の二十日まで、すべて
二十八日まであります

と答へたり。

父ハかさねて先生ハ休中の心得を、お聞かせなかつたかと、問ひに太郎は直に左の事ども、裁あげたり。

書物、手習、算術などの復習をおこたるな。

決して、あゝき遊びをするな。

よく飲食物ふ氣をつけよ。

坐 明日 書 算術 復習

第二十二課

飲食物

飲食物ハ、常ニモ、エラバ子バナラ子ド、夏ノ間ハ、最モヨク、氣ヲツケテ、用フベキナリ。

水ハ、ワカシタルヲ、最モヨシトス。サレド、アマリ多ク飲ムハ、宜シカラズ。

食物ハスベテ新シキヲエラブベシ。
クサリカ、リタルハ、決シテ食フベ
カラズ。又、アクマデ食フハ、甚ダ宜シ
カラザルコトナリ。

最宜新

以	遍	係	後	家	乃
い	へ	る	た	な	の
詠	望	越	走	羅	お
る	こ	を	れ	ら	た
む	ち	ま	ん	せ	く
は	ち	わ	る	む	く
ふ	里	河	法	亨	屋
に	り	か	つ	う	や
お	娘	公	祿	井	ま
ほ	ぬ	よ	ね	あ	ま

き	之	阿	第
せ	み	あ	け
は	志	き	ぬ
た	し	さ	ふ
	葱	丸	木
	葱	き	こ
	心	句	元
	ひ	ゆ	江
	色	然	五
	も	め	九

尋常小學校讀本卷三終

明治二十五年九月廿八日印刷
同 年十月十日出版

定價金六錢

石川縣金澤市片町五十六番地二

編輯兼
發行者

倉知新吾

同縣同市安江町十番地

發行者

近田太三郎

同縣同市上近江町四番地

印刷者

廣瀨與作

發行所

金澤市片町

益智館

同

同市安江町

古香堂

